



# 大阪万博プロジェクト！

## 開業！しんたつ、勝手にサテライト！

### 学びのストーリー

プロジェクト型学習

～ 生野区、勝手にびゅ～てい大使編 ～

～ Glocal Actions 編 ～

～ つなぐプロジェクト 編 ～



### 自律

～Kizuki、向き合い、自己を磨ける人間に～

# 1. 実践のスタート

今回は、最初に実施してから3年目の実践記録となります。1年目は本当に手探りで、大人も子どもも「探究って何?」という状態でした。積み重ねてきているのだから、今回は大丈夫だろう、そう思っていました。しかし、現実はそんなに甘くありません。ゴールイメージやノウハウはあれど、どうやったらそこまで到達できるのか?その手法や進め方は集団が異なるのだから当然違ってきます。課題解決型の学びは特にはじめは手探りで折り合いをつけながら進めていくしかない。「産みの苦しみ」は変わらないということを学びました。



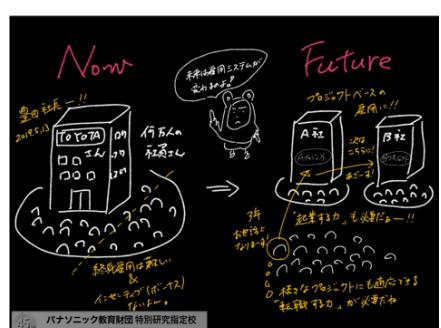
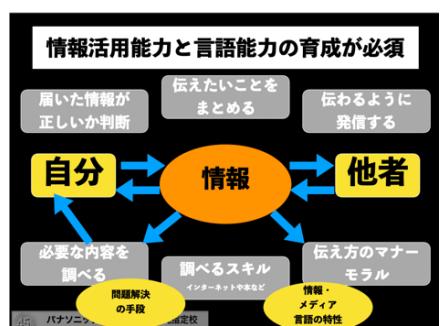
今回も例外なくヘトヘトになりながら、みんなで走りました。しかしやってみて思うことは一つ、みんな成長するということです。子どもたちを主語にして学びをつくりあげる過程は、これまでの知識伝達型の学びの質と異なりますが、確実に生きてはたらく学びをつくることができるこことを実感しました。さて、3回目となるびゅ～ていプロジェクトのストーリー、1回目との違いや共通点に焦点をあてて綴ります。

## 2. 初めはミニプロから

今回は「侵入007!」というミニプロジェクトを先に実施しました。目的は3つです。

- 1) 役割分担して一つの成果物を作成する工程を学ぶ
- 2) 情報を調べ、まとめ、発信する方法を学ぶ
- 3) 目的に沿った集団形成を考え、合意形成を学ぶ

今回は読売新聞、造幣局の魅力をリサーチし、リーフレットにまとめて発信する。というミッションでした。できたりーフレットはお礼状とともにそれぞれの施設へ送りました。調べるだけではわからないことをインタビューすることが大切です。インタビューの方法や意見のまとめ方、自己の特性についてなど、目的達成のための手段のノウハウについて学びました。ミニプロジェクトだったので、目的に少し弱さもありましたが、「情報活用能力」、「他者と協働する」大切さについては大人に説明するように子どもたちには伝えました。全体訪問は大人の管理は簡単ですが、インタビューがそれぞれ行えない点に弱さを感じます。子どもたちの学びを主語にした活動を行う大切さを再認識し、このミニプロを終えました。



### 3. 1・2年合同プロジェクト、始動！

今回決定的に違う取り組みとしては、2学年合同でプロジェクトを進めたことです。2月27日（木）にパナソニック教育財団の研究発表を予定しており、そのプログラムの一環として生野区の課題解決への提言と、生野の魅力を発信するプロジェクトを提案しました。「vs 100人のリスナー」企画です。100人規模の大人相手に生野はどんな歴史を歩んできたのか、その上でこれから地域を担う私たちはどんなことができるのかをワークショップ形式で実施するというものです。学びにうまく火がつき、両学年ともに早速スタートしました。



#### Time-out①：衝撃！アポなし突撃取材が…。

2年生はこの課題にさっそく煮詰まると報告がありました。なぜならある教師が「自分たちが想像する地域の課題と現実の課題が一致してなかつたら、進めたって的外れな発表するだけじゃないの？」と投げかけたからです。圧倒的に的を得ているのですが、子どもたちからしたらどう情報収集していいのかわかんない…代表たちは考えました。「そういえば、1年前のびゅ～ていプロジェクトで区役所行ったなあ。」そこからはあっという間。何と3名の代表はその日のうちに「勝手に」区役所へ足を運んでインタビューを実施。そりゃもちろん区民なのですから、利用することはいいのですが…通常業務と異なることなので普通であれば電話の一本を入れ、日にちを合わせる必要があることです。しかし、子どもたちの熱量と運が重なり、1年前にお世話になった地域まちづくり課のみなさんに会うことができ、2時間のインタビューに快く応じてくださいました。その後、もちろんお詫びの連絡を入れました。プロジェクトを進め、子どもたちが当事者意識を持ち出すと思いもよらないことが起こることを感じました。しかし、この判断のおかげで取り組みはうねりをあげて進みました。私も「もちろん、1年生にも情報共有してね」と一言。2年生は1日で、自分たちの得た情報から1年生が必要な部分を選び、共有してくれました。区長さんからビデオレターもいただき、生野への提言が学校の枠から抜けたことも印象に残るものでした。



#### 4. メンバー編成、テーマ決め、アポ取りへ

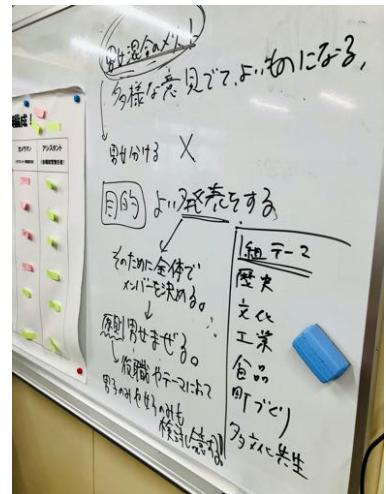
年内にメンバーやテーマを決定し、年明けには活動ができるように。ミニプロの学びを生かして取り組んでほしいと願いながら子どもたちの様子を見守っていました。しかし、この時期はいつも大人が気が気ではありません。子どもたちに任せる際、限られた時間で目的を達成できるのかと不安に感じるからです。当たり前ですが、総合の時間も限られていますので、他の授業を削るようなこともあってはなりません。信じて待つか、アドバイスするか、教師主導で進めるか…。100か0かの理論ではない、その間の感覚がファシリテーターとしての素養です。子どもたちはあっけらかんとし、大人はどこまで関わればいいか悩み…一番ヤキモキする時だったと思います。子どもたちも何の視点も与えなければストレスが少なくトラブルが少ない班を編成しがちです。そんな中、「多様な視点で評価しあい、磨き上げることができる班とはどんなだろう?」という問い合わせを投げてみました。すると、

生徒 A：「男女の意見があった方が多様な視点で評価し合える」

生徒B：「性別だけでなく個人の特性や役割も見るべきだ」

生徒C：「班の垣根を越えて支えあってもいい」

生徒D：「目的は自分たちの地域の魅力を発信すること」



といった声を聞くことができました。だいぶしっかりした考え方ができるようになっているんだなと思いながらでしたが、あとから聞くと、もっと自分の考えを伝えたいところもあったとのこと。全体の中で発言をすることや発言しやすいワーク形式をとることも大切だと感じました。



班編成とテーマが決まると次に行ったのはリサーチ先へのアポイントです。これはすべて生徒が連絡を行いました。こちらが決めたのは活動日のみ。あとは一応チェックポイントを設定しましたが、基本的に時間帯の調整はすべて企業にあわせる形で進めました。子どもたちはアポイントをする過程の中で、自分たちの目的や何を聞きたいのかがかなり具体的になります。多少の言葉づかいの部分はありましたが、このような活動のキモだと感じました。

今年の地域散策は生野区に限定したため、移動に難しさがありました。しかし、バスに乗って移動する経験はあってよかったなということと、時間に間に合わせるために走って移動するなど、前向きな面を見ることができたのも非常によかったと思っています。これからは情報収集能力も育むことが大切です。とっさにバスの時間を調べるなど、学校の端末整備も充実させ、授業以外の様々な面で活用できるようにしたいとも感じました。

## ＜校外学習の様子＞



\*今年も抽選会・美しい街プロを実施！毎年なぜか盛り上がる！疲れているはずなのに（笑）

## ＜お世話になった企業・店舗一覧＞

区役所（地域まちづくり課） 鶴橋商店街 生田ランドセル 社会福祉協議会 生野区の公園  
特別用語老人ホーム夢の箱 コリアンタウン リゲッタ 李朝園 金杏奈の手作りキムチ など  
ありがとうございました！

## Time-out②：大阪市フォーラム発表

12月26日(木)に大阪市フォーラムにて本校の取り組みを発信。大人も子どもも他者があり、社会課題を解決しようとする目的があるから学びを得ることができるのだとしみじみ。総勢80名以上の方の参加、管理職や委員会の方がほとんど。本校はミドルリーダーを中心に発表しました。本校でやっている取り組みは多岐にわたり、一つ導入するだけでも大変だという声もあります。しかし、未来の変容に待ったはありません。大変なのは重々分かりますが、どこで汗をかくのか、みんなの努力のベクトルを仕組みを合わせることで未来の教育界は変わると信じています。

## ＜フォーラムの様子＞



## 5. 今年のびゅ～ていはココが違う！

校外学習後の流れは下記の流れとなり、ここ数年変わりません。

＜流れ＞

- 1) プrezenをつくる
- 2) プrezen作成と並行してお札状の作成、当日の会場レイアウト、写真印刷などの準備をする
- 3) プレ・プレを実施し、一度評価をもらった上でブラッシュアップする
- 4) プrezen本番



そんな中、今年度はさらにブラッシュアップするべく「クラフター」という新たな役割をつくりました。その名の通り、成果物を作成し、生野の美しさを発信するというポジションです。今までの活動だと、「言語表現は苦手だから、思いがあってもうまく表現できない」という課題がありました。そのため、なかなかプレゼン作成に貢献できないというケースがあったのです。他者に思いを伝える手段は言葉だけではありません。そういった趣旨の元、ミニプロで学んだリーフレットやポスター、絵本など多様な手段で成果物をつくっていました。しかし、時間確保という新たな課題も生まれました。



教師：せっかくつくったけど見る時間が取れないかもなあ

生徒：うーん、当日掲示するのはするんだけど…

教師：その場以外でもみることができたらいいんだけど

生徒：写真とか取ってネットにあげる？著作権の問題とか

クリアしないとあかんけど。

教師：そんなことできるの？サイトとか作れたりする？

生徒：やってみる



と、何なくつくってくれる生徒が誕生。Google サイトを使ってみんなの作品の PDF データを掲載することになりました。サイトの使い方は共有設定で活用することになりました。多少のつまづきもありましたが、予想の範囲内程度。子どもも大人もそれぞれが折り合いをつけながら、「できることをできるときにできる人がする」そんなテーマも継承し、教師もすべてを把握できないくらい、子どもたちはそれぞれ躍動していたように感じます。



## Time-out③：パナソニック教育財団、プレゼンコンクール奨励賞！

1月18日（土）今年もプレゼンコンクールで入賞者がいました。校内では4名がしのぎを削り、2名が選考されました。その中から最終選考へ西本真穂さんがノミネートされました。「勉強の仕方」という誰もが一度は考える、そんなテーマでしたが、母の言葉をきっかけに自分のやり方を見つける話は、とても共感できるものでした。惜しくも上の賞は逃してしまいましたが、本校のプレゼンの取り組みが2年連続評価されたことに喜びを感じました。



## Time-out④：とびっきりワクワクする都市、大阪を提言しよう！

1月20日（月）大阪府庁と連携し、「ワクワクする都市、大阪にするには？」をテーマにしたワークショップを1・2年合同で行いました。大阪府が万博開催に向けて進める中で、中学生の意見を聞きたい！という依頼が本校にあったからです。テーマを6つに分けて実施、大人もファシリテーションの練習です。全体ワークを校内研修担当が牽引し、各ブースには若手・中堅でファシリを担当しました。この時校内では初めてGoogleスライドを活用してワークショップを実施した日でした。また、カメラ機能でワークの資料を前で投影するなど少しづつICTを日常的に活用し始めた時でもあったなど振り返ります。

### ワークショップ当日スライド ワクワクするランキング Best3



## 6. プrezen当日

プレゼン大会においては例年、あっと驚く発見があります。プレゼンの方法には、自分のペースで独自の世界観に引き込む方法と、聴衆とインタラクティブなやりとりをしながら進める2種類の方法があるかと思いますが、そんな中、どちらにおいても光る生徒が出てくるのが印象的でした。また、場づくりなども大切な要素だと非常に感じます。エンターテイメントには裏方が必ず必要なものも再認識する日となりました。



## 7. 新たなチャレンジに向けて

今年度最後の取り組みは1・2年合同のイベントです。パナソニック教育財団研究発表の日に位置付け、子どもも大人も発信しようという趣旨のものでした。学年が異なるので活動内容の一端しか把握できていませんが、2年生も相当なパワーで取り組みを進めていたようです。発表は2月27日（木）、1年間の学びの集大成です。それぞれ校外学習での学びを終えたのち、当日に向けて運営委員会を行いました。また、2年生代表が打ち合わせと説明で1年の教室へ連絡に来る様子も。最後の発進に向けて、共有すべきところは共有する。それが取り組むことはそれでやる。1・2年共同の良さが少し見られたシーンでした。



## Time-out⑤：生野区シティプロモーションへの参加へ！

区役所の突撃取材以来、どんどん活動の場を外に広げる2年生。2月15日（土）には地域の町づくりイベントに参加。中学生ながら地域の方々と生野区をよりよくするためのディスカッションをはじめ、現在の自分たちのアイデアをプレゼンしてきました。区長さんも参加されているイベントの中で、自分たちの意見を発信する場になりました。最後に27日のイベントの宣伝も。ちゃっかりしてるなと思いましたが、



想像以上に頼もしく、大人顔負けになってきたなとも感じました。

## Time-out⑥：リゲッタ JACK！

2月17日（月）中国の広東省の学校と文化交流を控えた2年生。お土産に地場産業であるサンダルをどうにかプレゼントできないものか、リゲッタさんに相談したところ、自分たちでデザインしてプレゼントできるサンダルを人数分用意してくれました！しかもしかも！サンダルを会社で作って良いとのこと。2年生58名、全員で押しかけ、一日のんびりした時間の中でまだ見ぬ海外の友達に向けて作業をしました。リゲッタさんとは2回目の出会いとなりますが、本当に懐の深い素敵な企業です。将来働きたいと思う子も出るんじゃないかと思うくらい、お世話になっています。当日は西川きよしさんの息子、西川ただしさんの番組の取材もあり本校生徒も交流させてもらいました。そんな企業の魅力も紹介したいと思える活動となりました。



## 8. 最終イベント！

いよいよ2月27日（木）、研究発表の当日です。ギリギリまで迷いましたが、当日はコロナの関係で外部からの参加を中止するという事態となりました。子どもたちには何ていおう。正直全体の中止も頭の中にありました。しかし、生徒たちはここまでやったのだからと当日、自分たちだけでもやろうと意思決定をしました。参加できないのなら、少しでもという思いもあったのか、それとも単純に後輩が気がかりだったのか、3年生も10名程度オンラインで参加してくれました。この次の日から、学校は休校となり、次に全体で会えたのは6月15日（月）、実に3ヶ月半もの空白となります。再開されてからこれまで、今までの取り組みを振り返ることもなく、授業の遅れを取り戻すために授業を行うことになりました。この学びをどうつなげていくのか。どこにも知られることなく、走りに走ったプロジェクトでしたが、確かな学びと、社会課題への提言がありました。素晴らしい発信を終え、最後のイベントを終えました。



## Time-out⑦：最後の一日

2月28日（金）が3年生最後の登校日となりました。その日のうちに自分たちで1日の過ごし方を決め、自分たちの巣立ち方を決め、行動していました。こんな姿が学校で育てたい理想の生徒像だと、最後に示してくれました。



## 9. エピローグ (R2.8.24)

ようやく、本当によく、ここまで活動を振り返り、整理することができました。45期生1年生時の探究記録を記す目的で始めましたが、どういうわけか、全学年の取り組みや活動が随所に入ってしまいました。これは本校の取り組みが学年や学級の垣根を越え、つながり、互いに作用しあって成り立つものだからに違いありません。今回、コロナの影響もあって様々な取り組みが中止となりました。もし計画通りに進めることができていたら…悔しい思いは正直あります。何もなければきっともっと外部とつながり、色々な取り組みができていたことでしょう。少し学びが途切れてしまったことは事実です。しかし、学びが止まっていたわけではありません。今は、これからもっと飛躍するためのツールが整いました。学習の進度も概ね整理することができました。新しいメンバーも迎え入れ、しんたつみの新たな学びをつくる土壌が整いました。伝統は継承し、新たな伝統をつくる。そのためのこれからが明日からまたスタートします。やればできる。そう言っていた生徒の言葉を思い出します。来年の3月にはまたきっと素敵なストーリーをつむぐことができることを信じて、令和初めの探究のストーリーに幕を下ろします。



## 添付資料

### ＜はじめに＞

さて、45期の諸君、学校が始まって9ヶ月が経とうとしています。学校にもだいぶ慣れてきて、色々とできることも増えてきている頃かもしれません。教科ごとに先生が変わるばかりか、1つの授業にたくさん的人が入り、分割があり、放課後の単テタイムがありと、「他の学校とは全然違うやん！！」という声も多く聞きます。そうです、新巽中学校は今までの学校と少し違います。私はあまり普段から真面目な話をしませんが、少しだけ大切なことをここに綴ります。君たちの3年間の学びの方向を示す大切なことです。

考えて欲しいことがあります。それは、「学校は何のためにあるのか？」という問いただす。「君たちは学校で何を学ぶのか」という問い合わせに近いかもしれません。

「友達をつくるため」「勉強やペーパーテストで良い点を取るため」「高校に行くため」「正しい生活習慣を身につけるため」こんなことを思い浮かべた人が多いのではないでしょうか？

色々あるかと思いますが、シンプルに考えると、中学を卒業し、高校・大学・大学院と進学する人たちも、最後は「社会」で生活することになります。とすれば学校で学ぶことは、

**「社会でよりよく生きる力」を身につける。**  
**「社会をよりよくする力」を身につける。**

と、位置付けることができると思います。しかし、その君たちの生きる少し先の社会が大きな変化を迎えるということが、先輩たちとの探究からわかってきました。まず1つ、2050年には、日本の人口の40%は高齢者（65歳）、生産人口は65%から50%に大幅に減少することが数学の統計という考え方でわかっています。

また、スマホやインターネットの急激な普及に伴い、テクノロジーが私たちの生活を大きく変えるということです。AIやロボットの進化は目まぐるしく、今や人の「耳」と「目」、それと「声」は機械によって創り出されています。「教えてグーグル！」「Hey Siri！」と言えば何でも教えてくれ、カメラは顔で人や文字を識別し、防犯機能や写す手間を解消してくれます。家電もインターネットでつながり、スマホを通じて遠隔操作をすることができるようになっています。

さらに、このように情報を調べることができる社会だからこそ、自分にあった環境やモノを選ぶことができます。中学校も選んできていますね。欲しいものも物流の発展により、Amazonやメルカリといった通販やフリマアプリで手軽に購入することができます。君たちは選ぶために必要な「情報」が日常に溢れ、タブレットを使って簡単に手に入れることができます。

このように、君たちの生きる半歩先の未来は、スマホやタブレットが当たり前かのようにあり、知りたいことや見たいことはほぼ何でもスマホを使えば知ることができます。人とつながりたいなら、SkypeやLINEのビデオ通話など、簡単に世界中の人とつながることができます。手紙やポケベル、ガラケーしかなく、教科書やテレビ、地域でしか情報やモノを得ることができます。なかつた私が君たちぐらいの年齢の時代からは、想像もできないような大きな変化が起こっています。

その社会は、今もなお、すごい勢いで変化を続け、価値観もどんどん変わっています。今まで知識をたくさん覚えている人が「すごいね！」と評価される時代でした。しかし、今は誰もが簡単に調べることができます。知ってるだけでは「すごいね！」となりません。それよりも何が課題かを見つけ、自ら問いを立て、課題と向き合い、自ら考え、自ら選び、自ら実行する人が「すごいね！」と評価される時代となっています。つまり、

「何を知っているか？」ではなく、「何をしてきたか？」が問われる時代ということです。

9年間の義務教育も残り3年となります。君たちは今までの6年間の中で、数え切れないくらいの質問を与えられ、それにずっと答えてきました。しかし、これからの社会をよりよくし、より良い生活をするためには、自ら問いを立て、課題と向き合い、最適解を見つける、この繰り返しが求められます。にも関わらず、学校生活で自ら問いを立てることをあまり教えてきませんでした。そこでそんな力が必要なら、義務教育の間にその力をつけるきっかけを提供しなければならないと考えたわけです。このようなことを踏まえた上で、主幹となるプログラムは用意しました。が、ゴールに向けて彩りをそえるのは君たちの思いや考えです。新翼みんなで、「これからの社会」でも活躍する力を身につけることができる「より良い学校」を創り、君たちにも先生たちにも双方向にとって魅力ある未来を創っていく。そんなプロジェクトだからこそ、「しんたつ！Jr.high つく～るプロジェクト！！」です。

今回のキーワードは「開業！！しんたつ、勝手にサテライト！」です！言葉の通り、「勝手に」開業しました。このプロジェクトは3年生の「つなぐプロジェクト」と「beauty actions」とも連動しています。何が連動しているかというと「つながり」です。先輩たちが本気で取り組んできたことで、今、少しずつ社会にうねりを与えるような取り組みができつつあります。それもしたたかに使いながら、私たちは「勝手にサテライト」を合言葉に活動します。サテライトとは、「別会場」「別ブース」のような言葉の意味があります。万博や観光局、大阪の魅力を発信する部署、または本気で何かを頑張っている人とともに、出来ることを勝手に実行し、アクションを起こしていくというプロジェクトです。勝手にサテライト会場を名乗りながら活動するのですが、この「勝手なアクション」が相手に認められるものになれば…そんなことを考えるとなんだかワクワクしませんか？君たちもやってみたいことがあれば唱えよう！

「開業します！！…勝手にね」（ニヤリ）と。笑 やってやるぞ！45期生！！！

# 1. 取り組みの7つの方向性 7つの「つく～る」に迫ります。

## その1：これから「心」をつく～るプロジェクト

今年度の学年テーマである自律～Kizuki、向き合い、自己を磨ける人間に～に向けて、活動を通じて未来をたくましく生きる心を磨きます。



## その2：「持続可能な社会」をつく～るプロジェクト（活動を支えるプロジェクト）

テクノロジーの進歩がめまぐるしい社会ですが、実はたくさんの課題を抱えています。

2030年までにその課題解決に向けて、すでにアクションを起こしている人たちがいます。私たちのプロジェクトにたくさんの視点をもたらす学びとなります。



## その3：大阪市の「万博」をつく～るプロジェクト（活動を支えるプロジェクト）

大阪市は万博誘致が決定し、2025に大阪万博を行います。世界中から最新のテクノロジーが集結します。未来の大阪市をつく～る子どもたちとして、今できることにアクションを起こします。



OSAKA-KANSAI/JAPAN EXPO 2025

## その4：「つながり」をつく～るプロジェクト

社会でよりよく生きるために働く力が必要です。どうせ身に着ける力なら、今からどんどん学びます。どんな「思い」を持って働いているのかといった、実際に企業や専門学校などに足を運ぶことで、インタビューしなければ知ることのできない内なる想いを盗みます。



## その5：「発信の場」をつく～るプロジェクト（プレゼン大会）

目的意識を持って他者に伝わるように発信します。学校内では文化発表会や、自分たちだけならポスターセッション、プレゼン大会と学びの場を整えます。本校はパナソニック教育財団特別指定研究校としてのミッションも担っています。タイミングによっては大人に発信するプロジェクトも実行します。



## その6：みらいの「地元」をつく～るプロジェクト

今や世界で最も注目されている都市、「OSAKA」。万博、IR誘致、観光地としても世間を賑わせています。そんな中、地元「生野」はどうなんだろう？モノづくりが盛んなんだけど、観光地とかあるのかな？？大阪の生野区の未来を共に創ります。



## その7：「絆」をつく～るプロジェクト

個人だけで解決することのできない課題は、周りと協働し、

教科・年齢・学校といったあらゆる垣根を超えて、つながりを大切にし、解決します。



## 2. 学びの道しるべ（実際に取り組んだこと）

- 9月 7日 ブローグ：「しんたつ、Jr.high つく～るプロジェクトの探究への誘い」  
「ミニプロジェクト：発信の方法を盗め！！読売新聞侵入 007！ついでに造幣局の謎に迫れ！」
- 12月 9日 第1節：「勝手にサテライト開業！生野区のびゅ～てい大使へのお告げ」
- 12月13日 第2節：「アポなし企画！3年生が勝手に区役所にアポなしで取材してみた」
- 12月23日 第3節：「プロジェクトチームの編成」
- 1月15日 第4節：「2年生、現地リサーチ開始！1年、担当別 MTG」\*地域巡り
- 1月17日 第5節：「取材アポを取ろう」\*地域と連携
- 1月20日 第6節：「世界一、ワクワクする都市大阪を提言しよう！」\*府庁と連携
- 1月30日 第7節：「実際に足を運んで調べてみよう」\*校外学習
- 2月 7日 第8節：「プレ・プレをしよう」\*プレゼン練習&フィードバック
- 2月12日 第9節：「プレゼン準備&最終調整」
- 2月14日 第10節：「実際に魅力を発信しよう」\*プレゼン大会
- 2月27日 第11節：「学んだことを全力で社会に発信しよう！」\*研究発表会
- エピローグ：「活動を通じて学んだこと」

\*今回の単元は各教科でも学びをつなげることができます。また、取り組みの中でここに記載されたこと以外の取り組みが加わることもあります。道しるべは必要最低限のものとし、プロジェクトを遂行すること。

## 3. ワークシートについて

教室裏面に思いの「共有ボード」を各クラスにつくっています。冊子にして閉じてしまうと自分の考えは自分で見ることができますが、他の人がどう考えていたのかについては見ることができません。なので、ワークシートの“追加制度”を導入します。先生たちは支援者として、周りの人が何を考えているのか、考えたことを共有した方が全体の学習が深まりそうな内容についてはワークシートを作成します。教科内で学んだことでも同様です。どんどん投稿しましょう。

- ①サイズは必ずA4サイズで作成をし、共有ボードに差し込むようにします。
- ②発刊番号をうち、全ての学びが終わったら発刊番号順にこの“学びの書”に差し込みます。

そうすることで、つく～るプロジェクトは全てつながり、世界に1つだけのあなたの学びの書が完成します。

## 4. 勝手にサテライトの使命と予算

- ①未来の学びを勝手にまとめ、全力で発信します。
- ②予算は0円です。（新規中学校にあるものは使用可）
- ③あらゆるICT機器を使って発信します。パソコンやタブレットを使用します。

\*Microsoft社ソフト、Apple社ソフトなど



×

## しんたつ、勝手にサテライト

×



OSAKA-KANSAI/JAPAN  
EXPO 2025

スキル	内容
内発的動機	自ら「やってみよう♪」の背中を押し、苦手なことや困難なこと、知らないことに挑戦してみようと思う心のあり方
自己管理力	自分の感情の起伏をコントロールし、自己を自制（ガマン）し、時間を管理したり、物事に優先順位を決めて段取りや道筋を立てて行動する力
自己有用感	自分の価値の認知と自信への昇華。活動を通じて自分の役立ちを感じ、それを自身に変えて行動に積極性が増している。
持続的探求	困難に直面した時、他の手法を考えたり、調べたり、他者と協力したりして、課題解決に向けて試行錯誤しながら活動している。
問題解決力	課題を理解（発見）し、解決方法を複数考え、それを実行して複数の結果より道筋を立てて最適解を導く力。
批判的思考	根拠により偏りなく物事を見つめ、自分自身の考え方や行動も積極的に、客観的に振り返り、正しく判断している。
社会的責任	自分のできることを考え、それぞれの集団の中における役割を果たしながら、自分の振る舞いで集団に貢献している。
合意形成力	意見の対立や衝突を乗り越え、建設的に意見を出し合い、集団が納得しながら対話を通じて気持ちをすり合わせ事ができる。
多様性受容	考え方や価値観、立場などの違いを受け入れる心のあり方。違いを理解し、共通点や良い点をきっかけに関わりを深めようとしている。
情報活用力	情報を問題解決の手段として活用したり、目的意識と他者意識を持って調べ・まとめる・発信する事ができる。また、情報の特性を理解し正しく扱う事ができる。